

八戸ブックセンターのこれまでとこれから

戸田山みどり 八戸工業高等専門学校

これまで

八戸ブックセンターには、そのオープン以前から関わらせていただきました。ちょうど、学校が文科省の事業であるCOC「知の拠点」というプロジェクトを進めていた時期で、地域との連携を模索していた頃です。私の専門は児童文学研究なので、本を媒介にした街の活性化であれば、多少はお役に立てるかしら、という魂胆からでした。

オープンしてからは、早速、校内のCOC事業に応募して、旧知の日本女子大学の川端有子先生をお招きし、子どもの本についてのトークを実施しています。また、それがきっかけで、「本のまち八戸」のもう一つの事業である小学生対象のマイブッククーポン配布にあわせて、おすすめ本のリストを作成しよう、ということにもなりました。リスト「本はともだち」は、ブックセンターの森花子さんという強力な相棒を得て、今年で5回目になります。

また、ブックセンターの企画である「ひと棚」に合わせる形で、教員によるアカデミック・トークとして何度か専門のお話をさせていただくことができました。昨年度は本校の女子学生やOGをも巻き込んで「リケジョに語る」シリーズと称して実施しています。

ありがたいことに、私も2回ほどブックセンター主催のアカデミック・トークの講師としてお招きいただきました。ふだん、学校の授業では取り上げることのないシェイクスピアや英語の絵本(ピーター・ラビットもの)の面白さをご紹介することができて、私自身がたいへん楽しませていただきました。

これから

私のこれまでのブックセンターとの事業は、半分以上勤務先絡みだったのではないかと思います。でも、その仕事はそろそろ他の方にバトンタッチ。これからはもう少し、私個人でやってみたいことを追求していきたいと思います。

まず、懸案事項となっているのが、「声に出して読みたい英語絵本カフェ」です。絵本には声に出して読みたい音の楽しさを追求したものがたくさんあります。日本語のものも面白いものがたくさんありますが、ちょっと恥ずかしいですね。外国語だと心置きなく大きめに発音できるのではないかしら。アルコールが入ると、より舌が回るかも。大人も子どもも大歓迎です(子どもはアルコールはダメね)。ついでに本をブックセンターで購入していただければ、なおよし。

もう一つは、できれば、ですが、「シェイクスピア作品の読書会」です。シェイクスピア作品の良いところは、ト書きなどの説明が少なく、解釈の余地が大きいところ（謎解きとも言えます）。そして、セリフが華麗なこと。お芝居でなければ言えないような言葉を声に出して読んでみる楽しみがあります。1年に1作くらいのペースで読んでいって、最後にはどこかでリーディングの発表会ができれば楽しいだろうな。

どちらのイベントもお仲間が必要です。そして、きつとうるさくなりますね。ブックセンターの真ん中がなんだか騒がしい、という時には犯人は私たちかもしれません。

戸田山みどり midori todayama

八戸工業高等専門学校

アカデミック・トーク「大人のための児童文学カフェ」(2017)、「せりふで味わうシェイクスピア」(2020)、「ピーターラビットを英語で読む」(2021)／マイブック推進事業 ブックリスト「本はともだち」(2017～)など

東京大学文学部卒、名古屋大学大学院博士課程修了、博士(学術:国際コミュニケーション)。主に英語圏の児童文学と絵本に関心がある。愛知県立大学等の非常勤講師を経て、2001年より八戸工業高等専門学校に勤務。英語の授業や日本語での論文の書き方指導も担当。

